

尾鷲市

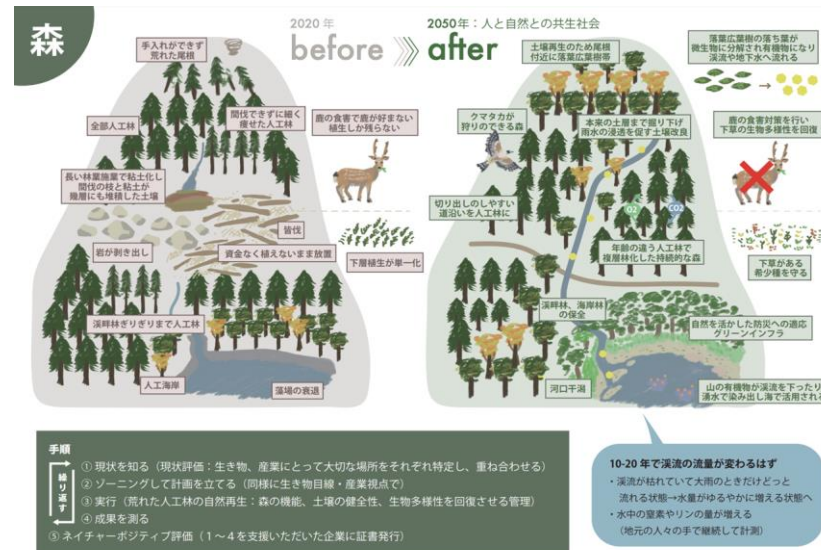
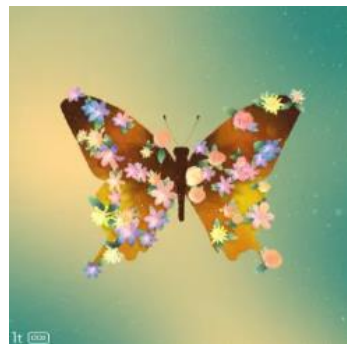
◆カーボンプレジットに関する取り組みの略歴

尾鷲市では、「22世紀に向けたサステナブルシティ」の実現を目指し、さまざまな取り組みを進めています。

その一環として実施している森林吸収系プロジェクトが、2024年1月にJ-クレジット制度に登録されました。

現在、このプロジェクトは2025年3月のクレジット発行に向けた事務手続きが進行中です。

SINRAの”Regenerative NFT



特色・PRポイント

- 尾鷲市は、豊かな自然環境を活かした「22世紀に向けたサステナブルシティ」の実現を目指し、2022年3月に市内外の企業や関係者とともに「尾鷲市ゼロカーボンシティ」を宣言しました。この宣言を具体化するための施策の一つとして、市有林の人工林と天然林が吸収するCO2によって生み出される環境価値をクレジット化し、地域資源の「見える化」を進めています。また、民有林へのクレジット活用の波及も視野に入れています。さらに、販売収益を活用し、ネイチャーポジティブや生物多様性の回復を目的とした森林整備との連携を図り、持続可能な事業展開を目指しています。この取り組みは行政だけでなく、多様な企業や関係者と官民一体となって進めています。
- カーボンプレジットとNFT（代替不可能なトークン）を活用し、森林の再生と地域経済の活性化を目指すプロジェクトである『SINRA』では、尾鷲の森林で得られた環境価値を販売しています。その収益は、『尾鷲市ゼロカーボンシティ』の実現に向けた財源として活用されています。

ネットワーキングに対する期待

- 尾鷲市が持つビジョンや価値観を共有し、地域環境の持続可能性や環境保護に共感いただけるパートナーとのマッチングを通じて、長期的な協業につながる場を目指しています。また、尾鷲市では、ゼロカーボンシティの実現をはじめ、30by30アライアンスやSATOYAMAイニシアチブへの加盟といった客観的な指標を有する自然環境フィールドを提供することで、企業が企業価値の創出や新規事業の創出の場として活用できるよう、具体的な事例を交えながら関係構築を進めたいと考えています。

松阪市

◆カーボンクレジットに関する取り組みの略歴

- ・令和4年10月 プロジェクト認定（第52回認証委員会）
- ・令和6年 3月 クレジット認証（第59回認証委員会）
- ・令和6年12月 クレジット販売



特色・PRポイント

松阪市が所有する山林に加えて国の森林経営管理制度で市に管理委託を希望し、市が取り組むJ-クレジット制度に同意を頂いた森林で、18年間の経営管理権集積計画を策定した民有林を加えて取り組んでいます。（全国初）

市有林の内324haと集積計画を策定した森林の内112haを合わせた436haが、現在のJ-クレジットの対象森林面積です。

販売においては、市内で創出されたJ-クレジットを市内の企業に活用してもらい、クレジットの地産地消や市内でのカーボンオフセットを目指していることから、現在は市内企業に限定をして販売をしています。

J-クレジットの販売により得られた収入は、今後の森林管理など、市の様々な事業で活用していく予定です。

ネットワーキングに対する期待

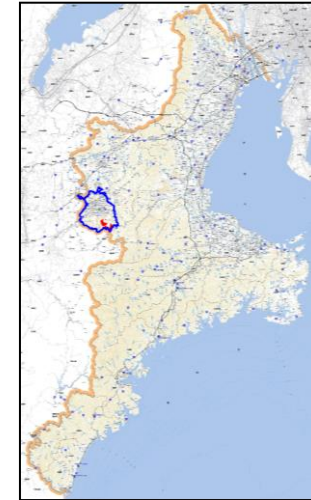
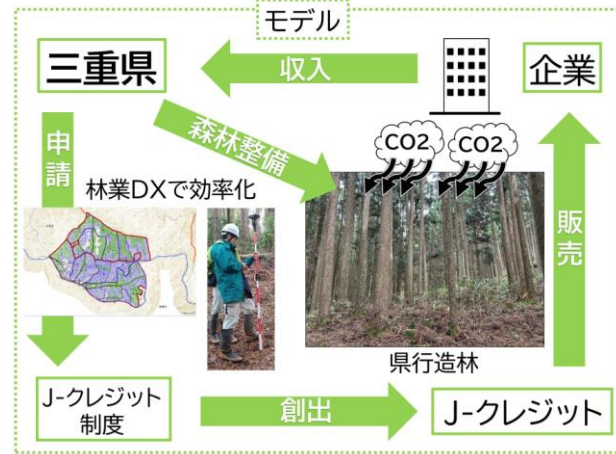
- ・ 松阪市のJ-クレジットは、販売先を市内企業に限定しているところですが、県内企業においてJ-クレジット制度の理解が進み、活用方法等の情報共有が図られることで、購入企業のすそ野が一層広がることを期待しています。
- ・ また、県内市町の取組状況をはじめ様々な参加者のご意見等を伺うことができる貴重な機会は、今後のクレジット創出等において新たな視点を獲得できると期待しています。

三重県

◆カーボンプレジットに関する取り組みの略歴

- 令和5年4月 県によるJ-クレジット創出の取組開始
- 令和5年6月 制度事務局への申請開始
- 令和6年1月 計画書登録（計画創出量 10,499t-CO₂）
- 令和7年 J-クレジット創出（創出予定量 923t-CO₂）

カーボンニュートラルの実現に向けた林業GX推進事業



特色・PRポイント

- 県内における森林経営活動によるJ-クレジットの活用促進のため、県自らJ-クレジットを創出し、申請から創出、販売までのプロセスにかかる知見・ノウハウを把握するとともに、効率的・効果的な申請手続きや創出後の販売手法について検討し、モデルを示す取組を実施しています。
- 本取組の対象とした森林は、三重県名張市の国津地域に位置し、面積は約223haで、そのほとんどがスギ・ヒノキの人工林により構成されています。
- 対象森林は、県が樹木の植栽及び保育・管理を行う県行造林です。古いところでは、明治40年から造林を実施しており、100年の森として計画期間中、継続的な保育・管理を行っていきます。
- J-クレジットの販売により得られた収入については、全て森林の保育・管理やさらなるJ-クレジット創出のための財源として活用する予定です。

ネットワーキングに対する期待

- クレジット活用者のクレジット購入の意欲を上げていくにあたって、創出者側に求めることや示してほしい情報を確認したい（購入者名の周知、クレジット創出までのストーリー、現地における森林管理行為による環境への貢献度等）。
- 募集期間を定め、販売先を公募する予定であるが、こういった条件（上記の情報に加えて、販売量、購入単位、購入価格等）であれば応募するか確認したい。

NPO法人SEA藻

◆カーボンのクレジットに関する取り組みの略歴

プロジェクト名称：三重県熊野灘における藻場再生・維持活動

プロジェクト実施地域：南伊勢町、紀北町

Jブルークレジット認証量：2022年度：28.9t-CO2

2023年度：20.3t-CO2

2024年度：49.5t-CO2



駆除活動の状況



ガンガゼによる磯焼け



ガンガゼを食べるイセエビ



アオリイカの卵



回復した藻場



ガンガゼを食べるイシダイ



繁茂するヒジキ

特色・PRポイント

- SEA藻は南伊勢町、紀北町、三重外湾漁業協同組合、三重大学藻類学研究室、鳥羽市水産研究所と協同で2015年からウニ類（ガンガゼ）の駆除活動を実施してきました。
- 本プロジェクトの対象としている三重県熊野灘海域において、ウニ類（ガンガゼ）を駆除することで海藻が増加すると報告（倉島ら、2014）された手法を用い、最も効率的なスキューバダイビングによる駆除活動を継続して行ってきました。活動は一般ダイバー、三重大学ダイビングサークル、愛知県立三谷水産高等学校生等のボランティアダイバーの力を借りて実施してきました。その他、海藻の種を出す母藻の設置や芽（種苗）の取り付けを行ってきました。
- 藻場を維持するためには徹底した駆除及び継続の必要があると考えています。ボランティアダイバーの参加費を通常のダイビングツアーと比較して低価格に設定して参加しやすくしており、掛かる経費（器材レンタル費や保険料、交通費等）を民間団体からの助成金等で賄っていますが、目に触れる機会の少ない海洋環境の保全への助成は限られているのが現状です。カーボンのクレジットの販売により、外部の助成金等に拠らない持続可能な活動資金を得ることを目指しています。

ネットワーキングに対する期待

- 海洋に直接かかわる事業を行っている企業のほか、間接的にでもかかわっているまたは、現在全く海とかかわりのない企業にも広く海洋環境について関心を持っていただければと考えています。
- 駆除活動や藻場のモニタリングに活用できる技術や機械をお持ちで活動への協力へ関心のある企業があれば、ご提案頂きたいと考えています。

JF鳥羽磯部漁業協同組合

◆カーボンプレジットに関する取り組みの略歴

(プロジェクト名) 鳥羽周辺海域の漁業と観光業連携による海女文化・地域振興に資するブルーカーボンプロジェクト

(対象) 黒のり、わかめ ※いずれも鳥羽海域の養殖生産物

(認証対象期間) 2018年、2019年、2020年

(クレジット対象吸収量) 71.6 t-CO2 ※令和6年3月認証

鳥羽周辺海域の漁業と観光業連携による海女文化・地域振興に資する
BC (ブルーカーボン) プロジェクト

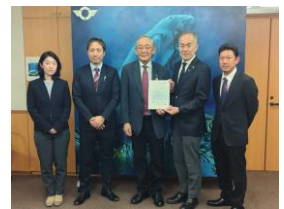
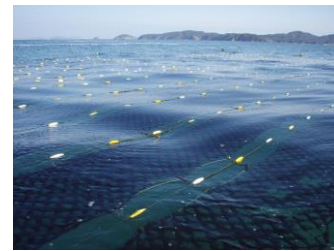
プロジェクト実施者: JF鳥羽磯部漁業協同組合、鳥羽地区漁の養殖研究会、鳥羽市、鳥羽短期大学専門学校、鳥羽市観光協会

■プロジェクトの概要
三重県鳥羽周辺の養殖魚や海藻は多種多様な種類に恵まれ、古くからノリ、ワカメ、鱈や三重漬が日本一の産地を誇る重要な産地です。しかし近年は気候変動や海の環境悪化、種別魚種による食害の増加等により生産量が減少し、海の産地である漁業や海女文化への存続が危ぶまれる状況となっています。
鳥羽磯部漁協は、地域全体のカーボンニュートラルを目指す【漁業×観光×ゼロカーボンシティ鳥羽】の中心を担い、漁業者が鳥羽市・関係団体と一体になり、次世代を担う子供たちと連携再生活動などを行っています。

■プロジェクトの特徴・PRポイント

- ノリ・ワカメの産地では、海産の生態系崩壊による種別魚種による食害への対応として、漁業者は防犯カメラの設置等の対策を行い、養殖業を行いながらCO2を削減しています。ブルーカーボンと共同ノリ加工場による効率的な生産や、漁業者と連携したタイコ(種別魚種)の積極的な水揚げ、海産物を中心とした食品の開発など、観光業と連携した地域活性化に取り組んでいます。
- 近年、海産物の養殖業や漁業の伝統文化の継承は難しくなっています。海洋環境教育講座として未来を担う地域の子供達と行う環境再生活動や小学生や幼稚園への教育活動の支援を継続しています。
- 公・民・学の連携として、鳥羽短期大学専門学校と連携して海洋BCである「海を推進したブルーカーボン教育」の活動(システム)の開発)や、鳥羽市が推進・支援する鳥羽市水産研究所と連携して行う「鳥羽工芸」による「養殖再生」など先進的な取り組みを行っています。
- 鳥羽磯部漁協は、「漁業×観光のまち 鳥羽」において産業の中心的役割を担っており、新たなカーボンクレジット制度に活用して地域全体で観光社会を実現するために、ブルーカーボンクレジットを活用して気候変動対策に資する取り組みを拡大していきます。

クレジットは地域の子供たちとの活動などに活用され、脱炭素社会実現に向けた環境再生活動の継続や観光業との連携拡大のために活用します



特色・PRポイント

鳥羽市は、伊勢志摩国立公園に指定された自然豊かな地域です。漁業と観光業が主要産業であり、新鮮な魚介類を求めて毎年多くの観光客が訪れます。中でも、とりわけ海藻は種類も多く、ヒジキやアラメ(コンブ目の海藻)、テングサ(寒天材料)のほか、養殖のノリやワカメも質・量ともに県内トップです。しかし近年、海水温の上昇等により養殖ノリ・ワカメの生産が不安定となり、商品化できずに廃棄せざるを得ない状況も起こっており、食品用途以外に、何か価値を見出せないかと苦慮していたところ、このブルーカーボンプレジット制度に辿り着きました。我々は、この制度を通じて、多くの皆様に鳥羽のノリやワカメの美味しさを味わってもらい、また海の環境変化と漁業の現状を知ってもらう良いチャンスと捉えています。我々はクレジットの売買だけを目的とせず、企業様との様々な交流を通じて海、自然と人との好循環を目指していきます。

ネットワーキングに対する期待

- これからの若い世代を中心とした鳥羽の漁業を応援したい
 - 海洋教育や海域、漁村での人材育成に興味を持っている
 - 持続的に美味しいノリやワカメがとれる環境を守り、未来を創造していくことに賛同する
 - 海の可能性を信じて、私たちと一緒にパートナーシップを築きたい
- 上記のような「思い」を持った皆様と繋がりたいと思います。

三重外湾漁協あおさ養殖BC委員会 (三重外湾漁業協同組合)

◆カーボンプレジットに関する取り組みの略歴

あおさのり養殖の歴史は古く半世紀以上にわたり営まれてきており、超高齢化が進む三重県南部地方にとってなくてはならない産業となっている。

近年は地球温暖化や黒潮大蛇行等による水温や潮位の変化があり、漁業者はそれに対応しながら生産している。

養殖することでCO2を吸収し、そのクレジットで得られた資金を明日のあおさのり養殖振興のため活用していく



特色・PRポイント

- あおさのりの生産量は三重県が全国でも一番シェアされている。(約6割以上)
- あおさのりは伊勢志摩地域の特産品であり、付加価値がつくことにより歴史ある地域産業を守っていけるだけでなく、あおさのり養殖が続いていく事でCO2吸収・固定による地球温暖化防止対策などの環境問題の解決にも寄与することができる。
- 本プロジェクトのクレジット申請を行う委員会は、漁業者を中心に漁協、市町で構成されており、各団体が連携して行っている。
- クレジット購入による資金の用途については、構成員の合議の上、あおさのり養殖事業の振興につながる活動に対して使用している。
(例) クレジット購入企業を地元へ招き、あおさのり養殖事業者と交流していただいたり、実際にあおさのりを食べてもらうことであおさのりファンになってもらうための交流会の開催。
地元の学校給食であおさのりを使ってもらい子供たちの食育を行い、地域の特産品や産業に触れてもらう。
地域で行う行事や祭りなどで、カーボンプレジット活動の周知を行うためのブース運営。等

ネットワーキングに対する期待

- クレジットを通じて、企業と継続的な繋がりを持ち、あおさのり養殖事業の振興を連携して行っていくことを期待している